

大分県立竹田高等学校

関東同窓会 第24回総会・懇親会

とき 平成22年7月10日(土)

ところ ホテル グランドパレス

当番幹事 佐保 哲郎 (昭54年卒)



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第40号

発行者・会長 用正靖彦
編集者・委員長 田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町4384-2
電話 045-803-5677

<http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>

平成22年7月10日、東京九段下「ホテル・グランドパレス」2階ダイアモンドルームで第24回関東同窓会が開催されました。梅雨明けを思わせる様な好天気で244名の参加がありました。松良幹事長の開会の言葉で始まり校歌斉唱に続き、用正会長挨拶後、会務・会計報告・監査報告がありました。長田文正竹田高校校長のご挨拶では、最新の学校案内を今回出席した方々へいち早く配布できたこと、また現在建設中の新校舎が来年2月に完成するとのお話がありました。

また、池内晴一竹高PTA会長、首藤勝次竹田市長、後藤眞志竹高同窓会長の近況報告また、心温まるご挨拶をいただきました。続いてご来賓の方々の紹介があり、無事総会は終了いたしました。総会終了後の懇親会は、26年卒の長吉泉様の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。会食・歓談の進む中、今回のアトラクションは、「津軽三味線 貢正流」家元 三山正寛様ほか9名の三味線の演奏です。津軽三味線と言え「津軽じょんがら節」演奏が始まると三味線の迫力に場内は一瞬どよめきが起きたほどです。このほかにも2曲演奏があり皆さん三味線の演奏を堪能されたようです。

続いて、じゃんけん大会、豪華景品を目指し童心に返り「じゃんけんぼん」場内に喜びの声。ため息まじりの声が響き渡りました。楽しい時間も瞬く間に過ぎ、当番幹事の引き継ぎ後恒例のストーム。円陣を組み「戦い勝てり旨酒を……」と会場に響き渡らせ懇親会は終了しました。さて、同窓総会までの一年間私たちが当番幹事の活動は44年卒の方々が中心となり準備が進められて行きましたが、ここでは54年卒幹事を中心の一部書かせていただきます。10月23日、54年卒当番幹事の最初の打ち合わせを行った。そのころ新型インフルエンザ流行の兆しが騒がれていた中、代表幹事がインフルエンザの疑いがあると断言することで出席できず前途多難な出足となっていました。

たが10名ほど集まり打ち合わせ兼懇親会は無事終了。しかし、久しぶりの再会で打ち合わせより懇親会に力が入ってしまった感じがするのはしょうがない。その後、代表幹事はインフルエンザではないことが判明し一安心した。2月5日、44年卒・54年卒当番幹事の合同懇親会。私を含め多数の方が初顔合わせとなる。全員の自己紹介、地域ごとに集まり親睦を深めた。4月23日、44年卒・54年卒当番幹事合同打ち合わせ。5月の終わり頃から頻繁にメールが送られて来るようになった。44年卒幹事の方に頭がさがる思いでいっぱいになる。6月25日、44年卒・54年卒当番幹事最終打ち合わせ。本番を見据えての最終打ち合わせの為、打ち合わせに熱が入ってきた。皆の思いは同窓会を成功させること。そして同窓会当日、梅雨明けを思わせるいい天気(数日後梅雨明けになる)、ついに本番頑張るぞー!との思いで会場に早め到着する。ホテルロビーで待っているのと中国からの観光客と思われる方々がいっぱいいるのに今更ながら驚くと伴に中国の景気よさをつくづく感じさせられる思いでした。頑張り日本!!時間がたつにつれ幹事の方々が集まり始めカボスの仕分け等の売店準備、受付の設置、会場準備と慌しくなった。売店準備中、私にとって気になることが「腹太餅」? 緒方には無かったか? 思うが竹田だけのものだろうか?

と思いつつも次の準備。余興での三味線を演奏していただく「津軽三味線 貢正会」家元 三山正寛様を玄関に迎えに行つたがすれちがいで会場に直接行つてしまいあせってしまった。また、演奏前に椅子の準備も忘れていて二重の失態です。しかし、三味線の演奏は堪能していただいたことと思います。懇親会終了後、売店では当ホテル3階で行われていた気仙沼高校の同窓会会場にて竹田・カボスのPRと販売を行い完売いたしました。8月4日、当番幹事慰労会。無事に関東同窓会が終了したことで皆さんリラックスした気持ちでお酒が飲めました。また、神宮球場の花火が私たちを労ってくれる演出があり和やかな雰囲気浸ることができ感激。これで当番幹事の役目も終わり肩の荷が下りたことだが私にはまだこの原稿を書く仕事が残っている。文書を書くことが苦手な私にとって最大のプレッシャー、3キロも痩せてしまったのは笑い話になるだろう。また、今回の同窓会は、企画運営の殆どを44年卒幹事の方々がやっていたいただき私たち54年卒幹事はお手伝いみたいな感じになってしまった。10年後の当番幹事は私たちが企画運営を行わなくてはいけないと思うと心配である。最後に、第24回関東同窓会にご出席いただきました皆様有難うございました。当番幹事の皆さんお疲れ様でした。



竹田市 首藤市長ご挨拶



松良幹事長ご挨拶

フォトで綴る!!
第24回 総会懇親会風景



新、旧当番幹事の引継ぎ



プログラム
[懇親会の部]

12:20~14:30

1. 乾杯
2. 会食・歓談
3. アトラクション
4. 当番幹事引継ぎ
5. 「校歌」斉唱
6. 閉会のことば



アトラクション・貢正会

★これらの写真は竹田高校関東同窓会のホームページで、見るができます。

<http://geocities.jp/kantohtaketa/>

平成二十一年度会務・会計報告

ご挨拶

同窓会会長 用正 靖彦
(昭30年卒)



平成22年7月10日九段下の「ホテルグランドパレス」にて、24回目の関東同窓会の総会・懇親会が開催されました。

当日は心配されました天候にも恵まれ、244名の方々にご出席頂き盛大理に終ることが出来ました。特に今年は、平成15年卒の会員2名、平成20年卒の会員1名、平成21年卒の会員1名に出席頂きましたことは大変うれしいことでした。これから若い方々が大勢出席されることを期待しております。

故郷からは、母校にこの4月から着任されました長田文生校長先生をはじめ、本校同窓会長後藤真志氏、PTA会長池内晴一氏、竹田市長首藤勝次氏、商工会議所会頭後藤万壽郎氏が遠

路ご臨席頂き、更に東京在住からは、大分県東京事務所長、東京・大分高友会相談役、大分合同新聞社東京支社副部長、はじめ、大分上野ヶ丘、大分工業、国東高校、杵築高校、臼杵高校、三重高校、三重農業各校の役員の方々にご臨席を頂き誠に有難うございました。

本年は、昭和44年卒、54年卒が当番幹事として役員と協力して運営しました。イベントの「貢正会(みつまさかい)の津軽三味線」の迫力ある演奏は、すばらしかったと皆さんよりお褒めの言葉を頂いております。また、じゃんけん大会も本校同窓会長、竹田市長にも壇上に上がって頂き、大いに盛り上がりました。会員の方々にはこの同窓会がお互いの親睦を深めた楽しい同窓会になったことと思っております。

来年は、創立以来25周年の節目の年となります。意義ある会になるよう役員・当番幹事で努力してまいります。今年以上に若い方々の出席と大勢の会員の方々の出席を期待しております。今後とも会員の皆様には同窓会の運営に格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

竹田高校関東同窓会役員

平成22年3月改選

| 役職 | 氏名 | 卒業年度 |
|-----------|-------------|-------|
| 会長 | 用正 靖彦 | 昭和30年 |
| 副会長 | 総務担当 西 誠 | 昭和30年 |
| | 組織担当 加藤 興史 | 昭和33年 |
| | 企画担当 津下 渥子 | 昭和34年 |
| | 広報担当 塔尾 恵美子 | 昭和33年 |
| 幹事長 | 松良 修二 | 昭和34年 |
| 副幹事長兼名簿担当 | 倉本 正博 | 昭和44年 |
| 総務委員長 | 緒方 義信 | 昭和38年 |
| 企画委員長 | 井手 得郎 | 昭和41年 |
| 組織委員長 | 後藤 猛士 | 昭和41年 |
| 広報委員長 | 田部 修士 | 昭和42年 |
| 監事 | 坂本 勇 | 昭和28年 |
| 監事 | 桃溪 謙次郎 | 昭和37年 |
| 事務局 | 菅 紀代己 | 昭和34年 |

(相談役、顧問を除く)

会計報告

収支計算報告書

〈平成21年4月1日より平成23年3月31日まで〉

| | | |
|-------------|------------|--|
| 1. 収入 | | |
| (1) 維持会費 | 1,772,500円 | |
| (2) 総会費 | 1,936,000円 | |
| (3) 総会祝い | 118,000円 | |
| (4) 受取利息 | 402円 | |
| 計 | 3,826,902円 | |
| 前期繰越 | 1,934,594円 | |
| 合計 | 5,761,496円 | |
| 2. 支出 | | |
| (1) 総会費 | 2,147,253円 | |
| (2) 会報費 | 766,473円 | |
| (3) 会議費 | 465,796円 | |
| (4) 名簿費 | 16,732円 | |
| (5) ホームページ費 | 6,300円 | |
| (6) 慶弔費 | 6,047円 | |
| (7) 事務通信費 | 228,400円 | |
| 計 | 3,637,001円 | |
| 次期繰越 | 2,124,495円 | |
| 合計 | 5,761,496円 | |
| 3. 次期繰越の内訳 | | |
| (1) 現金 | 778円 | |
| (2) 預金 | 2,123,717円 | |
| 計 | 2,124,495円 | |

上記のとおり報告します。

平成22年4月10日

幹事長 松良 修二 (印)

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成22年4月20日

監事 坂本 勇 (印)

監事 桃溪謙次郎 (印)

関東同窓会&竹田会では若い会員の参加を期待しています。若い世代は転勤などで住所変更が多く、メールにてお知らせいただきましたら名簿の整備をおこないますので、ご連絡下さい。新規会員も大歓迎です。

- 関東同窓会：ホームページ名簿委員 倉本さん
kuramoto_masahiro@es.smbc.co.jp
- 臥牛編集委員&竹田会：事務局 田部宛
stanabe@parker.co.jp

新校長 長田校長先生より 関東のみなさんへ



大分県立竹田高等学校関東同窓会の皆様方には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素から本校の教育活動に対しまして、絶大なご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。7月に開催されました関東同窓会では多くの方々の母校に対する厚い思いにふれ、校長としてその責任の重さを再認識させられました。皆様のご期待に沿えるよう全力をつくす所存ですので、どうか今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

同窓生が学生であったあの頃とあまり変わらず時間が止まったかのような悠久の歴史を刻む城下町竹田、この落ち着いた佇まいは生徒の情操を形づくる

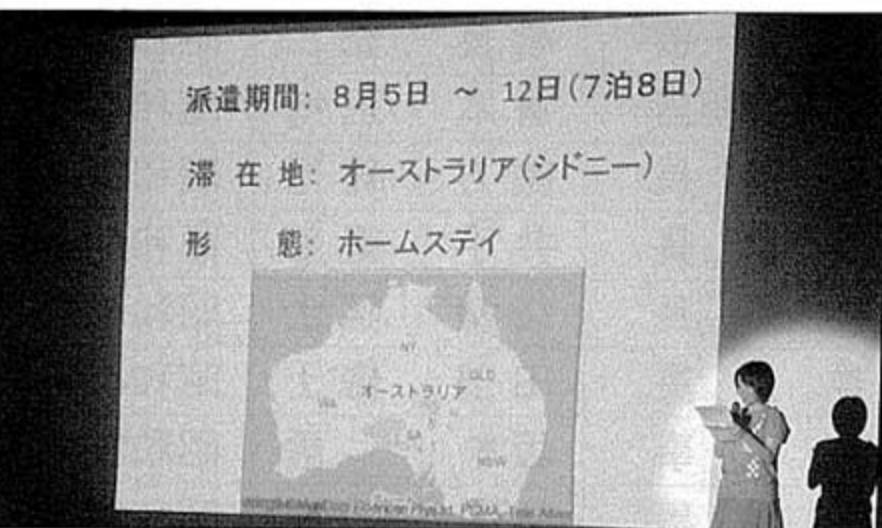
うえで、少なからず影響を与えていると考えます。今年の夏は記録的な猛暑で、こちら竹田でも例年になく暑い日が続きました。さらに今年は教室棟の改築工事(完成予定は来年2月)により、プレハブの仮設校舎での授業で、暑さも想像以上に大変だったと思われまます。しかし生徒たちは猛暑に負けることなく精一杯勉学に励んでくれました。こんな素直で明るく前向きな生徒たちを私は誇りに思っています。

さて、同窓会の記念事業の一つである海外派遣事業は、国際的視野の育成、異文化理解と英語運用能力向上を目指して始まり、今では本校の魅力ある行事の一つとして定着しています。昨年は新型インフルエンザの流行により中止しましたが、今年は8月5日から8月12日にかけて、2年生10人がオーストラリアのシドニーで研修することができました。参加者は事前に現地の地理・歴史・文化などを学習し、各自の興味関心に応じてテーマを決め研修に臨みまし

た。語学学校で英語のみで行われる授業や、シドニー市内の研修などを通して、移民の国オーストラリアの人々の寛容さと心の暖さに感銘を受けたようです。そして研修を終えた参加者は、英語学習の重要性と国際理解の大切さを痛感し、大変意義深い研修であったと感想を語っていました。

伝統行事である臥牛祭は「想(あい)」をテーマとして9月15日から9月17日にかけて実施されました。文化祭では各部やクラスによる趣向をこらしたステージ発表や展示、有志によるバンド演奏や神楽など大きな盛り上がりを見せ、豊かな創造性と躍動感あふれる活動に心打たれました。ところで、今年も同窓会のお骨折りにより、「坊がづる讃歌」で一世を風靡した芹洋子さんをお招きしてミニコンサートを開催することができました。「四季」「ふるさと」など心に残る名曲や童謡に生徒は魅了され、学校全体が明るくさわやかな雰囲気包まれ、臥牛祭に華を添えていただきました。

また、最終日に実施された体育大会では、全力で競技に参加する生徒の真剣なまなざしや、勝敗にこだわることなく互いに健闘を讃え合う姿に感動を覚えるとともに、先輩から後輩へ良き伝統が着実に継承されていくのを実感できました。さらに、



海外研修報告



今回は生徒の発案により臥牛祭Tシャツの売上げ金を、口蹄疫対策でご苦労されている竹田市と豊後大野市に、義援金として寄付させていただきました。このことは地元紙でも大きく取り上げられ、生徒たちの善行に地元でも大きな話題となりました。

本校は県教委が進めている進学力向上推進事業において、豊肥地区唯一の拠点校として今年も指定され、様々な学力向上策が実施されています。「地域の子ども地域の学校で育てる」をスローガンに、難関大学から就職公務員まで、幅広い進路希望

に込められるような学校づくりを今後とも推進して参りたいと考えています。また、部活動入部率は90%以上を誇り先輩方が築いてこられた文武両道の校風は今も受け継がれています。今年度はインターハイへは山岳部男女、弓道部女子個人、全国総合文化祭へは書道、将棋女子個人、民俗部が「民家の甲子園」へ出場するなど、大活躍をしてくださいました。

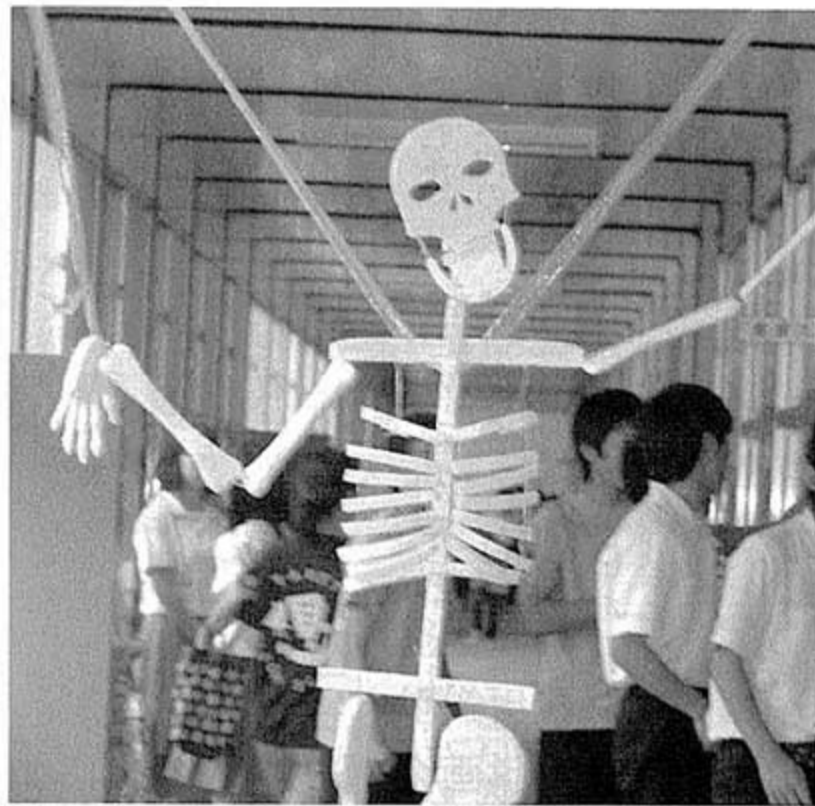
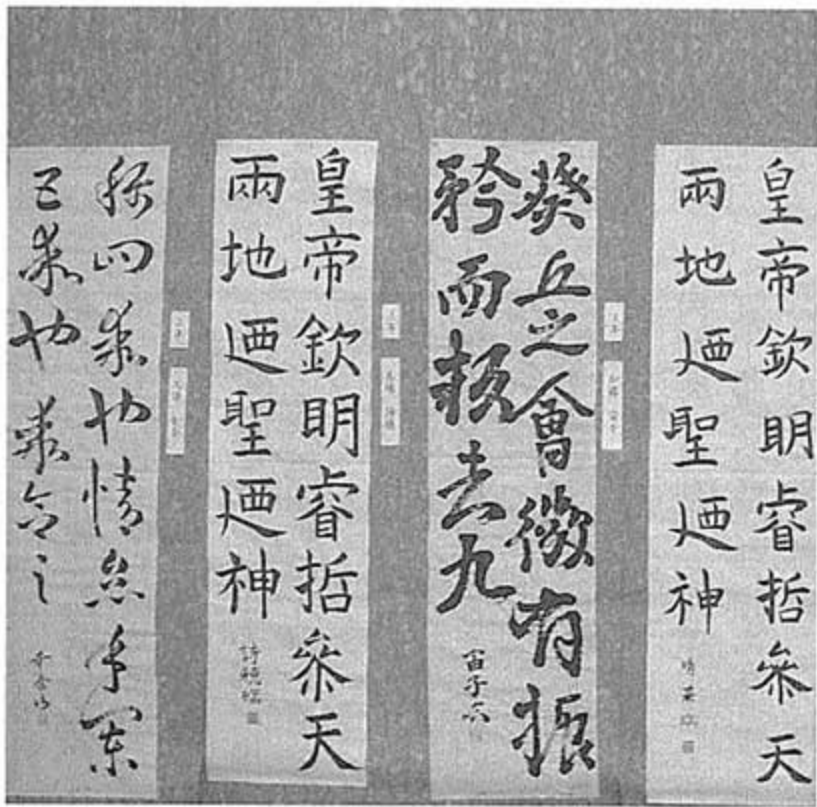
以上学校の現況の一端を述べさせて頂きました。今後の更なる躍進をお誓いするとともに、皆様の変わらぬご支援と叱咤激励をお願い申し上げます。

(長田 文正)



芹 洋子 四季の歌……。

臥牛祭り・写真集



特別寄稿

「清きを誓い気を練れと」

末吉 興一(昭28年卒)



ている人々の多さに比較して違和感を覚える。

私には前途が見えたと思つたことはこれまで一度もない。前途に希望を持って、しらしんけん」に努力してきたことはあつてもだ。

私は昭和二十八年竹田高校(第五期)を卒業するまで十年間、父の仕事の関係で竹田市で過ごした。戦中・戦後の混乱期、特に戦後の大混乱時期に学生時代を過した。街も人々の生活、人心をも大きく揺らいだ。

その変化は、子供心にも言語に絶するものがあつた。信じていた制度が根底から覆り、「変わらない制度はない」と自覚した。人々の生活も生きるが精一杯の時代だった。

この時期に山紫水明の地で過ごしたことは、私の人格形成に影響を与えている。

前途が見えない中にも、懸命に生きた知恵と勇気と情熱は私達世代には身に染み付いている。現在私の周囲には「前途が見えない」として思考を中止し

とおり竹田のことはいつも気に懸つていた。何故か気に懸かりつつも、遠くから眺めていた。竹田の市長は誰になつたとか、野球部はいつ甲子園出場か……とか全国紙の片隅を追つてきた。

その理由を自問するとやっぱ私の人生観を育んだ土地だからだ。

私は職を得てから職(建設省、公団、地方公共団体、市長職、内閣府、外務省)を退くまで約五十年「公職」に従事させて頂いたが、一貫して人から「後指さされないよう」にと心に決めて従事してきた。それは母の言ぐせでもあつたが、竹高校歌の「清き誓い」を高唱してきた言葉が心の中にあつたのだろうか。

校歌に話を戻すが、「清き誓い」に続く「気を練れ」という言葉がある。

この「気を練れ」とは人生の練成であろう。「清きを誓い気を練れと」はいつの間にか私の体に染み込んでいた。

後輩の学生諸兄を人生の生き抜くに当って「気を練れ」の意味を噛み締めて考えては如何か。必ず何か「見える」筈だ。校歌は大声で歌うばかりではあるまい。先人の魂が込められている。

それにしても、生きている間に甲子園でこの校歌を聞きたいものだ。

特別寄稿

編集後記

田部 修士(昭42年卒)

今回は、末吉先輩に寄稿頂きました。

現代の若者を意識され柔らかい内容にまとめられていましたので、編集担当が勝手に先輩の壮絶ともいえる人生を(事実に基づいて?)後記として追記させて頂きました。

先輩は、1934年兵庫県に生まれ、竹田高校から東大法学部に進学、卒業後建設省に入省され、1978〜2007年・北九州市長、2008〜2009年・内閣官房参与などの要職を歴任されました。昨年、内閣官房参与を辞し北九州に戻られました。

去るに当たっての心境として、地方復興への思いを込めて、陶淵明の帰去来の辞「帰りなんいざ、田園將に荒れなんとす 胡んぞ帰らざる」を詠まれたそうです。

京阪神を襲った室戸台風のさなかに西宮で生まれ、家の事情から北九州、宗像、竹田と転居を余儀なくされたそうです。幼少期は体も強い方ではなかったそう、ご苦労の連続の中、大学に進学されましたが、上京後も生活費、学費は自力で稼ぐしかなく、家庭教師を4軒掛け持ち

の学生生活を送られたそうです。

建設省入省後もご苦労は続き、早々2年目に松原下釜ダムの現場事務所に責任者として派遣されました。地元の抗議は鮮烈を極め、当時は連日のように紙上で取り上げられ、蜂の巣城の攻防」と言われる悪戦苦闘の日々を過すこととなったそうです。

当時、先輩の世代はどん底から立ち上がり、復興を目指して働き詰めの日々でした。坂本竜馬、広瀬武夫しかりですが、女性には、何事も気概を持って挑む男らしい男を支えてくれるのではないのでしょうか。まさに、しらしんけん」仕事に邁進する先輩を支えられたのが、ダム水没地域・中津江村出身の女性、今の奥様だそうです。

先輩は、来し方を振り返り「自分の人生で、これが好きだからやった」というものはないと言われたそうですが、奥様のご結婚はまさに先輩の人生で、これだけはなんとすると、好きだからを貫かれた数少ない出来事だったのではないかと思う次第です。

ふるさと名所紀行

田部 修士 (昭42年卒)

岡藩に來た陽明学者 熊沢蕃山(一六一九〜一六九一)



熊沢蕃山先生は、2年前にPHP主催の嚶鳴フォーラムが行われた滋賀県高島町の中江藤樹先生(陽明学の祖)の弟子になる高名な陽明学者で、短期間の竹田滞在にも拘わらず偉大な事業を残されました。故郷竹田には松本清張の小説「詩城の旅びと」で紹介された水路橋が多く点在し、同じく古城と水道で有名なフランスのプロヴァンス地方と比較され貴重な町の文化財となっていますが、岡藩三代目藩主中川久清公(1615〜1681)が招請した熊沢蕃山の治水に関する助言が一つのきっかけになっています。

中川久清公は1653年39歳で藩主となられ、蕃山先生の弟になる野尻藤助一成を家臣として召抱えますが、岡藩の政情不安を期に備前岡山藩池田光政公の推挙もあって1660年に蕃山先生を招請して藩政改革に取り組まれました。蕃山先生と中川公のご関係や先生の取り組みについては、故後藤宗昭先生が以下のように五七調の詩にまとめられています。

- 1、今を去ること300年 蕃山先生ご招待 久清公はかねてより 蕃山ゼミの門下生
- 2、頃は万治の末の頃 三佐の港へ 久清公 蕃山先生お出迎え 歓迎会は岡の笛
- 3、藩政改革28 農民負担を軽くして 荒地の開墾 井手作り 裁許の制度や 庄屋会
- 4、国の源山と川 城原山から三宅山 杉に桧に檜の木を 植えて水源確保する
- 5、終身齊家と洞を吹き 無用な理屈を捏ねるより 知行合一実践で 良知を示す陽明学

(これは2008年の後藤宗昭先生の講演でご披露されたものです) 格式を重んじる江戸幕府は、昌平坂学問所(現在の東京大学)において朱子学以外の学問を禁止しました

が、これに対して、陽明学は知行合一といわれ、学だけでなく実践が重視されました。その実践の学問は、佐藤一斉先生が「言志録」としてまとめられ、それが全国に広がって、後に吉田松陰、西郷隆盛等に受け継がれて大政奉還を迎えることになった訳です。岡藩では、蕃山先生から田能村竹田・小河一敏、広瀬重武、広瀬武夫、滝廉太郎へと受け継がれていきました。

先生の助言による城原山、三宅山などへの植林、水田開発、城原井路、緒方上自在水路の開発によって岡藩7万石は10万石となったそうです。当時は10万石の殿様は江戸城の控えの間が別格となったそうです。その心を受け継いでいる田能村竹田先生も、「筆の巧みならざるを憂えず、心の至らざるを憂うるのみ」、筆は上手い下手を気にする必要は無い、心の学問をすべし」と言われています。

久清公は、先生の「治山治水」に関わる数々のご助言に感謝されて、中川家に代々伝わる名笛「木枯らしの笛」を記念に贈られたそうです。その後が重要ですが、故あって蕃山先生は追放処分となるわけですが、晩年にこの名笛が粗末にされることがあったとはいけないと詩を添えて笛を返してこられたそうです。

「音もたかく 吹き伝えへたる木枯らしの 昔に復(かへ)る調べたがふな」。

昭和24年(1949)になって蕃山先生頌徳碑が岡城三の丸に建立されました。



尚、久清公は隠居と同時に入山公と名前を変え、墓所を大船山に定められました。そこは入山公墓と呼ばれ、岡藩が遠くまで見渡せる大船山の中腹の台地にあります。

さて、この十月には高さ4mを越える堂々たる広瀬武夫の銅像が完成、広瀬武夫をテーマに嚶鳴フォーラムが開催され、全国から多くの首長が竹田市に集合された。

広瀬武夫は、日露戦争の冒頭で亡くなられたこともあって、「坂の上の雲」では一部にしか登場しませんが、私見としては、(秋山兄弟と広瀬武夫は比らぶべきではありませんが、3人の中で)坂本竜馬と同じく短い人生ながら自己の一生をまっとうされたと思っております。

広瀬武夫は軍神とされたこともあって、戦後は敬遠される向きもありましたが、改めてその人柄や功績を見つめなおしていくことが大切と思う次第です。

ご存知ですか? 函館を開発した
四天王の一人、竹田出身の「渡邊熊四郎」

松良 修二(昭34年卒)

今年の6月、兄(四宮俊夫30年卒)から、函館一泊旅行した際、函館を開発した四天王と言われる経済人の一人が、なんと、竹田生まれの「渡邊熊四郎」という人物だったという碑文を見つけ、びっくりしたという話を見つめました。四天王像と碑文は元町公園にあります。資料により、渡邊熊四郎の生い立ちと活躍は以下の如きものであったようです。

天保11年豊後国竹田古町の生まれで、幼名は熊蔵。父は山下此吉といい、竹田では父の葉種・煙草などの商いを手伝っていたが、16歳の時、長崎に出て葉種商渡邊重吉の店員となり、その

後重吉の養子となり、名を熊四郎と改める。

長崎では北海道の海産物も手がけたことから、函館奉行所の薦めで、文久3年に函館に渡り、海産商を行い巨利を得る。明治2年に舶来品店を開いて世界各国の商品を普及、書店を開いて文化に尽くし、海運業を興して貿易に貢献。また、巨費を投じて函館病院を再建している。明治20年には北海道随一と言われる経営者となる。

明治11年に当時の北海道開拓史長官黒田清隆一行に加わって、ロシアとの貿易状況の視察、その他、学校の開設、函館新聞の発刊など、私財を投じて広範な社会貢献に尽力。その結果、藍綬賞を受け、明治44年11月に永眠。

四天王像の碑文には、明治の函館は、本州の都市のように、旧藩の遺産も恩恵もなく、従ってその束縛もなく、市民は自主的に市民精神を養い、経済の発展を計り、都市造りをした。との記述があります。志ある若者が、その持てる才能を遺憾なく発揮し、その結果、社会貢献ができて豊かな社会となる。今、そんな社会が求められているのではないのでしょうか。



お知らせ

第一回廣瀬武夫杯争奪
少年柔道大会

開催日時 平成22年11月23日

(火・祝日)

会場 竹田市体育センター

竹田市大字玉来1-11

(文化会館横)

主催 廣瀬武夫顕彰会

竹田市柔道連盟

共催 里見奨学会

竹田市教育委員会

後援 大分県柔道連盟

大分県少年柔道協会

大分県合同新聞社

TOSテレビ大分

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心から冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

久々宮 久様

(昭26年卒)

平成二十二年五月 没

※事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させていただきます。

竹田の数へ唄

一つとせ

東は大野西は肥後

山坂多き直入郡

二つとせ

文を通わす郵便は

三つとせ

道は近頃ひらけ来て

四つとせ

馬車の行き行きも次第也

五つとせ

養蚕制度は年々に

六つとせ

一ばん高い祖母山で

七つとせ

大船久住はこれに次ぐ

八つとせ

村数合せて十九にて

九つとせ

町は竹田の一つなり

薪や炭は豊かなり

やしろは城原の八幡社

寺は竹田の万徳寺

戸数は九千五百にて

人口およそ一万余

(以下不明)

*ご存じの方は編集部迄

お知らせ頂ければ幸いに存じます。

あとがき

次回 2011年関東同窓会

総会・懇親会

7月9日(土) 12:00

ホテル グランドパレスにて

※「投稿」をお待ちしています。

この会報は会員皆様方の情報交換の場として編集しています。関東同窓会全員の方々の投稿を期待していますがその数が少なく苦勞しています。お互いの交流の場としてぜひお活用下さい。

委員一同

投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

連絡先

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-15-1

日本パーカライジング

田部 修士 宛

(広報委員長)

TEL 03-3278-4307

FAX 03-3278-4309



燃える!!

クラス会・同期会

合言葉は…KANREKI!

43年『暁会』還暦同級会

昭43年卒 田口由美子

平成21年11月28日早朝の羽田空港で5名の男女がなやらひそひそ。

「熊本空港からはどげえしち会場迄行くんな?」「2時半に花水月にバスがくるき高原荘にはそれに乗っち行くで」

「KANREKI」の合言葉を叫びながら日本各地から【男子60女子74】が参集。4時開会、神官職の同級生相馬齋主による「還暦感謝祭神事」、甲斐君の乾杯の音頭で宴がはじまる。何よりの楽しみはおしゃべり。42年の歳月は皆に柔和と重厚を上手に与えてくれたようでした。(写真のとおり、綺麗な人も、普通の人も同じように年を重ねるものですね。…笑い)学年全体での修学旅行が行われなかった時代。1泊でも一緒にすごせたのは本当に楽しくてまるで高校生に戻ったよう。

当日、男子一名、3年時の強歩大会不参加を悔やみ高校から会場まで強歩で参加。以下は彼のブログ:「8時間歩き、名札を見ると高校の時の顔と今の顔が一致します。その顔がその人に人生があったことを物語っています。この会を計

画・運営してくれた級友に感謝し60年間生きてきたことを共に祝うひと時を過ぎたのでした(渡邊) 全員、心はまだまだ青春!健康に留意し再会を約す。生涯忘れることのない2日間でした。(2009.11.28~29 久住高原荘)



恒例の28会に出席して

昭28年卒 工藤 裕一

三月二十日、竹田高校28会が今年是小石川後楽園の美津屋にて催され男女二十二名が集まった。久しぶりと云うより「ヨーツ、元気そう

だな」の毎度組が多い。お互いに、後期高齢者世代入りで、現職や子供を離れ、小さな近隣社会の一員

にも慣れた年頃となったが、人の携がりの稀薄な今日の社会では、老妻老夫が互いの健康を気遣いながらの日々であろうと思われる。

こんな中で、青春と故郷を共にする同級生が集う機会が恒例として持てることは幸せのかぎりである。

会食談のあと、陽だまりの園内をみんなで散策する。庭の桜はまだ蕾、梅と水仙が主役顔で咲いていた。「豊後梅が多いな」という誰かの声に種名札に書かれた「豊後梅」の文字と大輪で気品のあ

る豊後梅の花をしみじみと見る。遠い豊後の国からはるばる移されたであろう豊後梅に、過ぎ去った歳月が早速りてまき戻された。

そして、「ブンゴタケダー、ブンゴタケダー」トンネルから出た汽車がホームにつく度に聴いた竹田駅のアナウンスの音が六十年の歳月をいつきに超えて聞こえてくる。機関庫まえを出入りする機関車の煙と蒸気と石炭の匂、川向の岩城屋旅館のウロコ葺屋根の景色が浮かび、胸の中がホッと暖かくなった。

どうやら私たちには竹田そのものが豊後なのかも知れない。地域の過疎化、経済の沈下は例外ではなく、近郷の農村では、手入れ不足の杉と桐の林野が打つ手もなく拡がり岡城址にはイノシシの群が出没すると言う。街も村も黙して忍の時代をひたすらに耐えているようです。

故郷は遠くにありて 想うもの、そして哀しく 詠うものか、唯祈るばかり 嗚呼。



「関東37(みな)の会」同級会

昭37年卒 桃溪謙次郎

37年卒同級会は、平成22年5月16日(日)、17日(月)に「新緑の箱根路を訪ねて」の一泊旅行を参加22名で楽しみました。

会場は箱根「湯本富士屋ホテル」、一週間後に「全国植樹祭2010」が足柄森林公園にて開催される際に天皇皇后陛下をお迎えしてのレセプションパーティー会場となっており、何となく緊張感と活気が館内を包んでいました。

その折も折、会の名前が「関東みな」の会」で受付に不振に思われ、そうではないんだと説明してやっと了解してもらった。受付看板も竹田高校を入れることで納得。行く先が思いやられる次第でした。

さて、16日(日)は一週間前の天気予報とは裏腹に清々しい晴天に恵まれました。16時から受付でしたが、その前に大部分の人がチェックインを

済ませ、温泉を楽しんだようでした。当日はゴルフ好きが、これまた「うもうねえ会」なるゴルフ会を小田原湯本CCにて開催、またまた受付にその意味を説明するのに「苦勞、スコアの方はその名の通りでした。」

18時から大広間にて、まず記念撮影をし、安藤君の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。平成19年に卒45周年以来約3年ぶりに再会出来たことを喜び合い、懐かしい顔が皆さんはころんでいました。ほろ酔い気分になったところで近況を語ってもらいました。67歳、いまだ現役の人、前線を退いてもなにかが社会貢献をしている人、また、充電中の人とそれぞれ的人生を歩んでいます。これからは健康に過ごせることが最大の幸せのように感じました。九州の桃源郷竹田で育ち、美しい自然を今でも誇りに思い、竹田高校で同じく学んだ連帯感、皆さん一致しているようでした。



維持会費の納入者の現況

●維持会費ご負担のお礼とお願い

*関東同窓会は、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力で支えられて、安定的なあゆみが続けております。まことにありがとうございます。

●平成21年度年会費納入者芳名簿

(平成21・4・1〜22・3・31)「総務委員会」

お名前もれがございましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。TEL03(5832)6531 FAX03(5832)6532

Table with columns for graduation year (e.g., 昭和23卒, 昭和24卒) and names of members. Includes a section for '高等学校' and '旧制中学'. The table lists names such as 山口立, 久保タケ, 飯倉一郎, 西山尚子, 朝倉幸, etc.

記事掲載のお願い
本年度分維持会費を納入され
た方へのお尋ね
大田上池台郵便局から5月
26日に振り込まれた方、振込
依頼人のお名前が記入漏れとな
っております。
お心当たりの方は事務局まで
ご連絡ください。